

甲子
の集

清心ざくら

梅松縁

秀加美作
芳席志

八編

錦龜堂

へ 13
3722
15





御ご

櫻さくら

梅うめ

松まつ

録ろく

上うへ

大錦堂花板





門 へ13
 號 3722
 卷 15

河而左の羅楳杉松久
 笑 孫者を將上之者
 秀 鹿鹿樓西河留志
 秀 櫻々稿畫工者
 錦 朝樓者ノ孫
 海 橋 彦山田
 屋 多々 玉河梅
 富 秋 水 板


或人難ト曰開也此稗史の主と做處の色換ぬ常般の松の前名ふも
 不似其意甚く僻々亦人毎小千折は安き野路の八重梅御前八重小
 心不咲ト賢也貞也或直る多き具竹の佞心の甚くは杯ハ畢竟前
 後首尾せの辨而已也更小作者の要心なり何を以て梅松録の名を
 全ク爲る乎と問ふ予對て凡江湖の人を視る小忠助と言ふ不義者亦六
 喜作と言ふ編座人あり於福と言ふ貧女あり於爲小不爲を做せ等敢て
 白く名優ト云ふ彼劇場の人物の如く惡人必色亦く名強く善人必色
 量るべし相を視て知べし殊小梅松櫻の名ハ菅公の御本傳小至ら自ら
 分解せと答ト云真赤る虚言也實ハ自思答を其後序文の換りとい做しぬ

文久四甲子初春癸丑


 鶴亭秀賀識


一

御公様



御公様

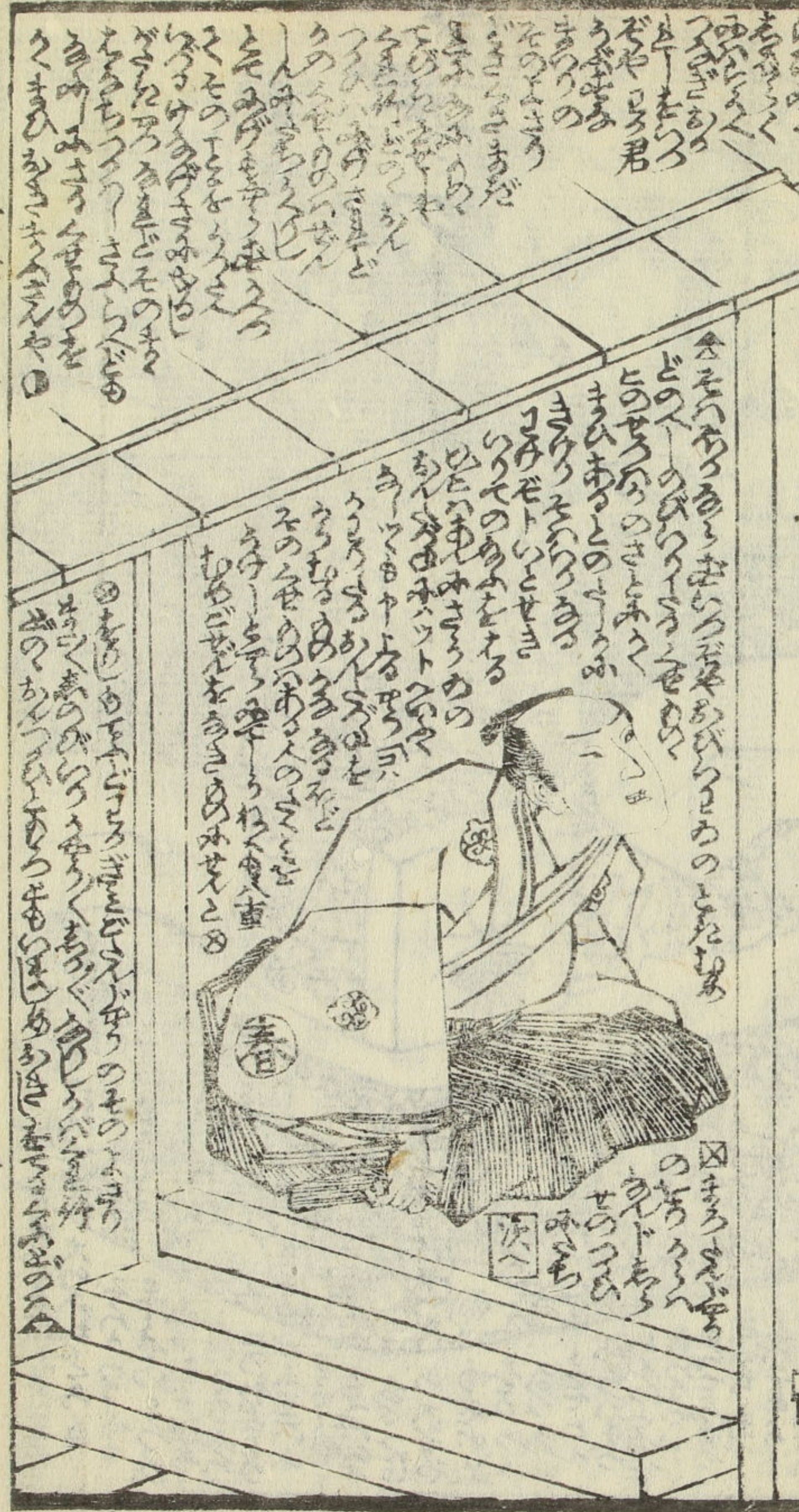
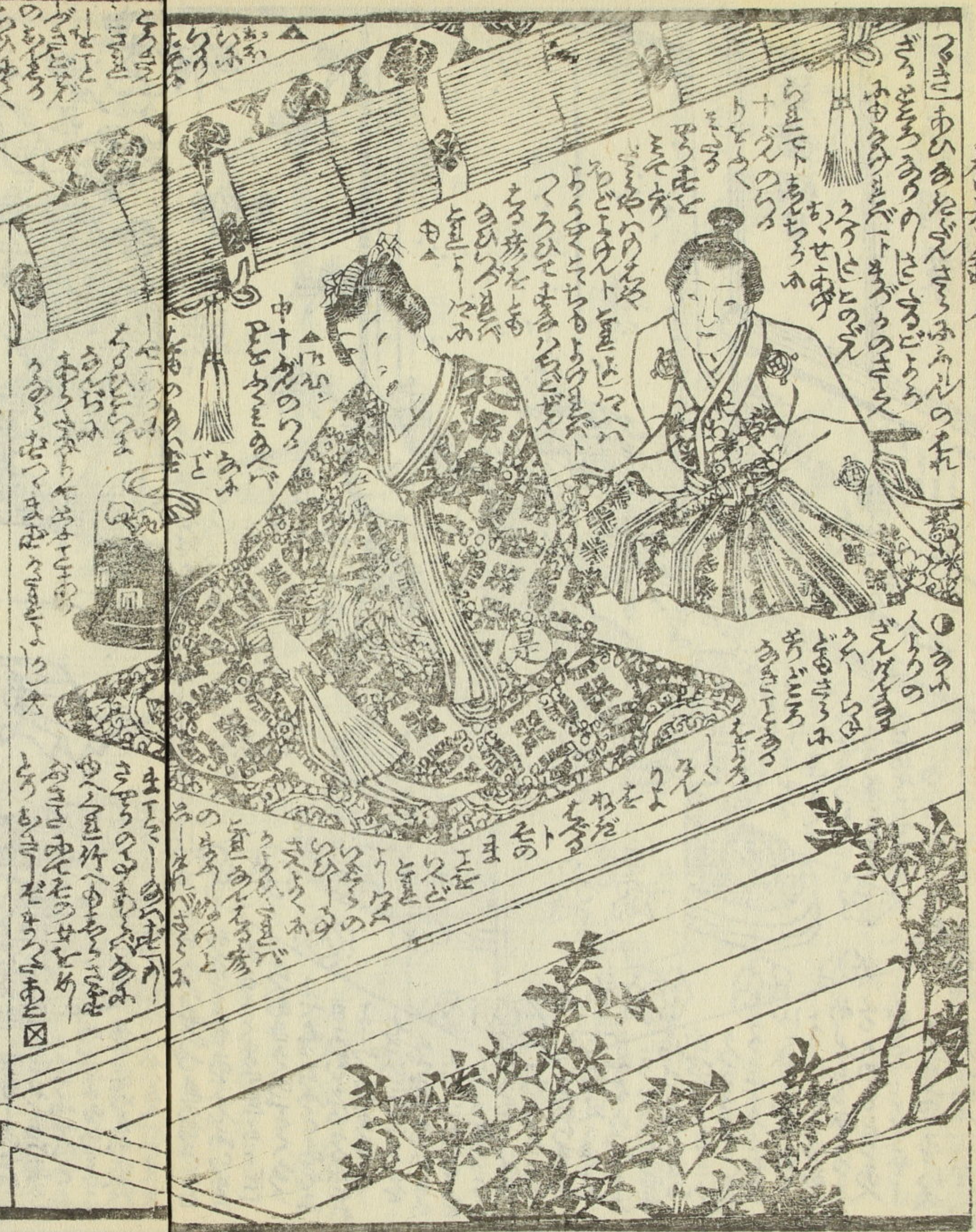
阿子營
是營
公也

廿化
咲

八重梅
御前

從三位
善卿





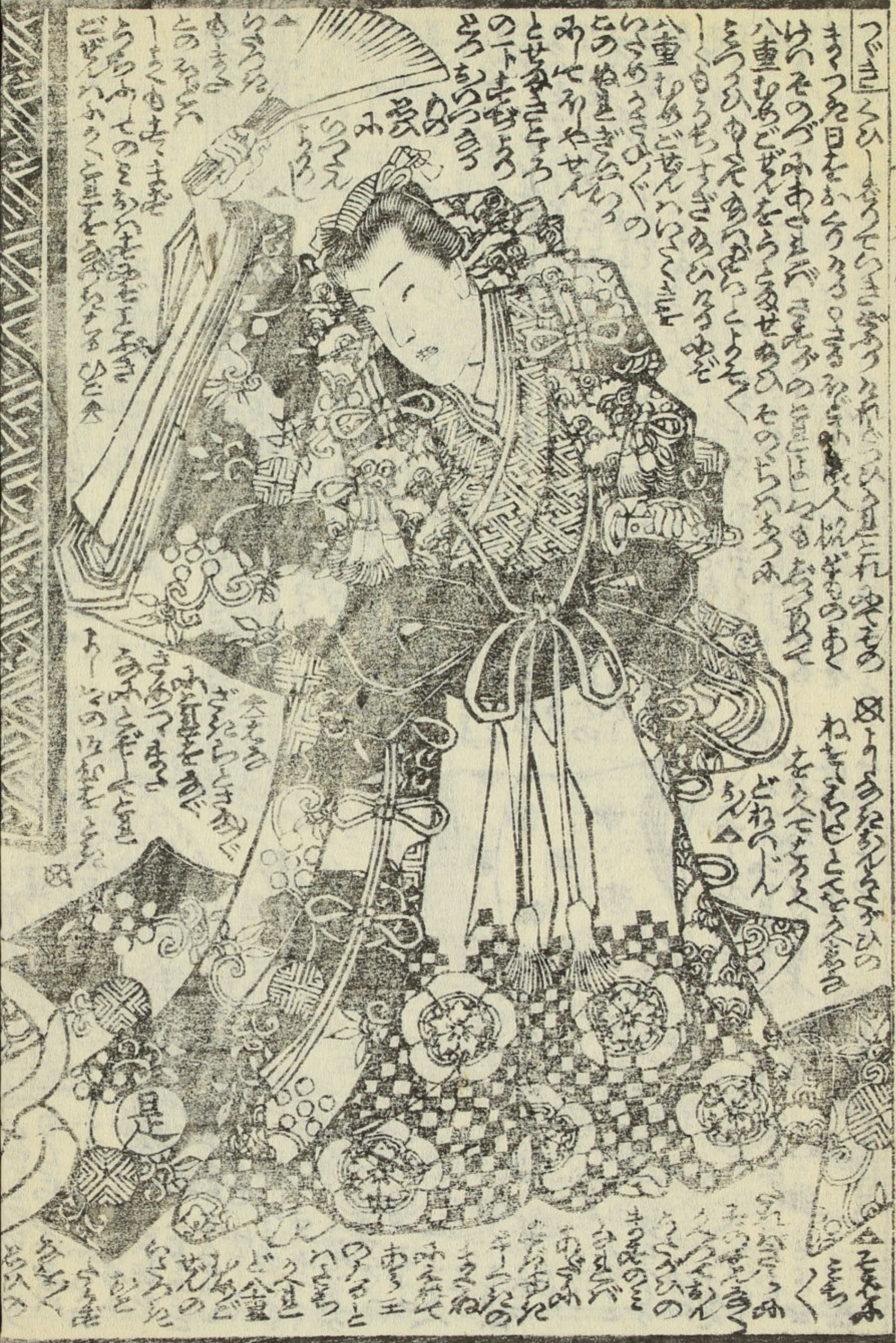
梅の樹



梅の花は
春の風を
かきよめ
て咲く
花は
春の
風を
かきよめ
て咲く

梅の花は
春の風を
かきよめ
て咲く
花は
春の
風を
かきよめ
て咲く

梅の樹



梅の花は
春の風を
かきよめ
て咲く
花は
春の
風を
かきよめ
て咲く

梅の花は
春の風を
かきよめ
て咲く
花は
春の
風を
かきよめ
て咲く

梅の花は
春の風を
かきよめ
て咲く
花は
春の
風を
かきよめ
て咲く

島 鮮 堂 畫 帖 折 本 錄

芳年

善惡教訓圖解

上下

藤芳

善惡雅教訓全

廣重

大日本神社佛閣全

全

周重

俳優忠臣藏全

廣重

東海道五十三次全

房種

花鳥かぶ美全

周延

徳川年代記事全

周延

嘗糴之圖全

房種

古今名婦傳全

房種

命養生善惡鏡全

廣重

花競東京名所全

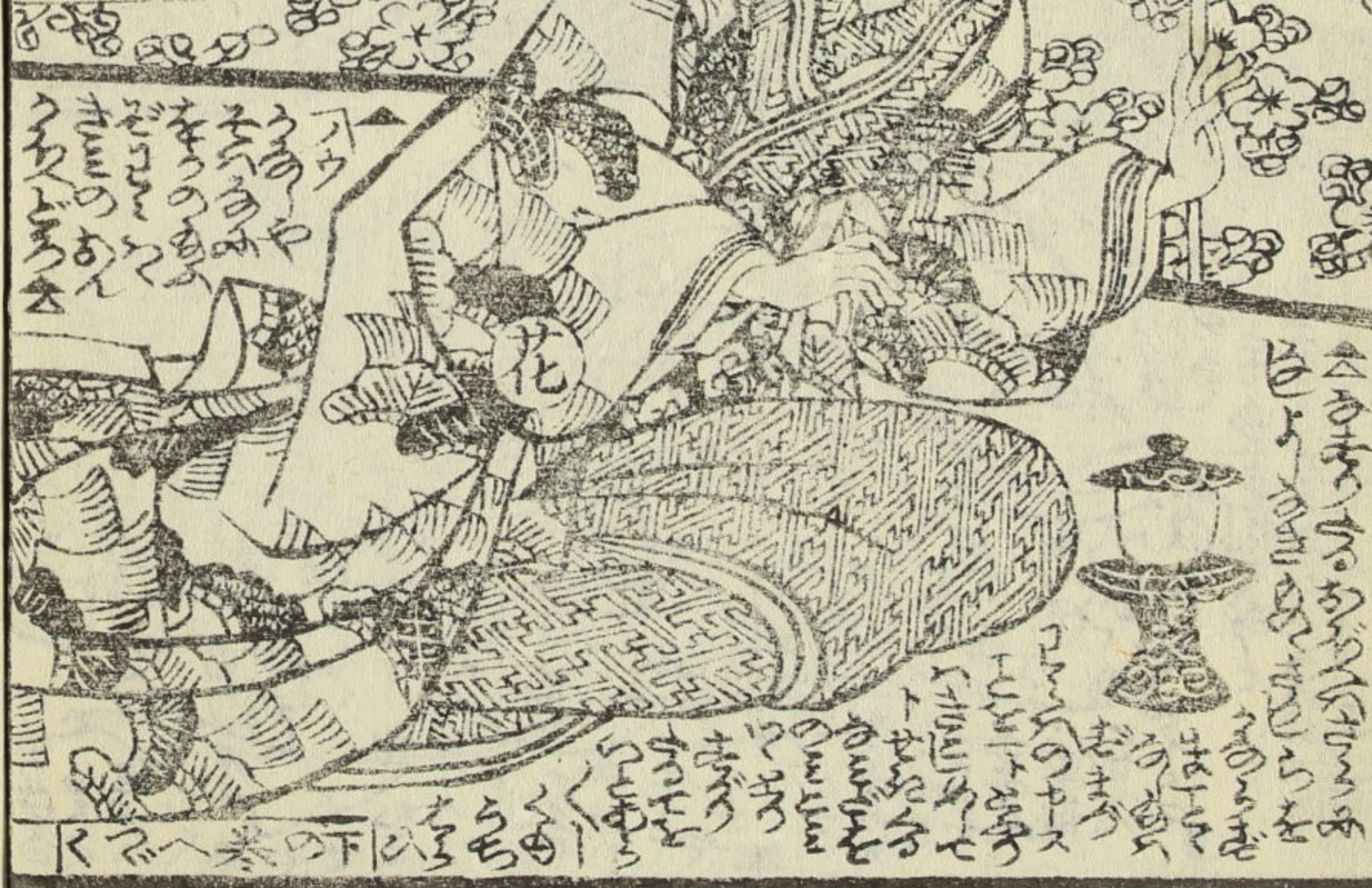
廣重

開化東京名所全

龜

地本錦繪問屋 島鮮堂 網島龜吉

秀賀作 芳虎画



秀賀作 芳虎画
 此画は、芳虎の筆によるもので、秀賀の作とされている。画面には、華やかな装束を身にまとった女性が、手に大きな装飾品を握っている。背景には桜の花が散り、春の情景を演出している。この作品は、江戸時代の浮世絵や木版印刷の技術を示している。

本巻

